

17

派遣軍將兵に告ぐ

支那派遣軍總司令部

於 昭和十五年四月二十九日  
南 京

0189

### 一 事變發生の根本原因

ノ東洋に對する自覺の缺如

世界に先行せる道義文化の傳統を共有し、二千年來の友好關係を繼續して來た日支兩民族が近世に於て兎角非友誼的獨立抗爭狀態を現出した根本原因は、主として共に東洋人たるの自覺を忘却し個人主義的歐米物質文化に眩惑した事に歸するものである。即ち近世に於ける支那の爲政者が專横に歐米諸國に依存し、其の力を利用して我が國の發展を阻止せんとして兄弟牆にせめぐの端をなし、自ら其の植民地たる地位に沈淪するに至つた事と、又一刀日清戰爭に勝つた我が國民が戰勝國の地位に於て支那に臨み支那人を輕侮し、歐米人に對しては先進民族として之に阿諛し其の前には屈すべからざる様をも屈するものあり、帝國の大雄想を忘れ侮支拜歐の弊に陥つた事が期せずして今日の事變に立至つた所以である。従つて兩國民が共に東洋への自覺に於て日支關係の根本的是正を圖る事が今次事變の目的である。

蓋し科學的文化的の上では遺憾ながら後進國であつた我が國が近代國家への躍進過程として以上の経過を辿つた事は眞に已むを得ざるものであつたとはいへば、反面亦誠に慚しい事であつた。

爾來我が國力の飛躍は著しいものがある、明治維新當時に於ては唯只昔自國の擁護を全ふするだけの實力しか持たなかつたものが、日露戦争に於ては獨力能く露國の極東侵略を挫き、滿洲事變に於ては正を以て争んで恐れず敢然として國際聯盟を脱退し、更に今次事變に於ては東亞再建の理想の下に新秩序建設の大旗を掲げて蹶起するに至つた所以は偏に御褒威の下先輩忠烈の貽續による國力の充實に伴ふ國民的自覺に基くものである。即ち我等は今や正に東洋民族の先覺として東洋への自覺、東亞の再建と謂ふ歴史的大任務に直面して居るのである。

#### ○ 歐米諸國の侵略的策動

英國が東洋侵略を開始したのは今を距る約二百年前の印度經略に端を發して居る。人口三億五千萬の印度を其の植民地として尙飽き足らず更に支那に歩を進め百年前の阿片戦争に依つて香港を取り上海、天津

の租界を獲得し、逐次揚子江を制し來つたのであるが我が國の歐起と支那民族の覺醒によつて其の露骨なる侵略方式を變更し支那を發して其の統一に或程度の助力を與へ、之が代償として財政、金融上の實權を掌握し、政治、經濟上殆ど獨占的地位を占め我が國の進出發展に對しては對立の勢を示し抗日政策を採らしめた事が今次の事變に至つたのである。

阿片戰爭の本質は印度人の作つた阿片を安く買上げて之を支那人に高く賣りつけ、其の利益は英本國人が獨占し其の結果として支那人を廢人化し來つたものである。新しい支那の自覺した青年によつて起された辛亥革命の進展に伴ひ、列強権取の植民地的地位から脱却せんとした排外運動の第一目標が英國に向けられたのは理の當然であつたが爾來彼は其の高壓的政策を巧みに偽裝轉換して支那の民族運動を援助し其の鋒先を排日に轉向せしめ日本の進出を阻止して今次の事變に至つたのである。

一方ソ聯は帝政露西亜の崩壊と滿洲事變の結果とにより、支那特に滿

洲に扶殖せる既得權益を喪失した爲、外蒙及新疆省方面より支那の侵略と東洋の赤化とを企圖し其の第一著手としてガロン、ポロイチンを派遣し辛亥革命の唯憾に參畫させて巧みに共產黨の勢力擴張を圖り、支那の民族運動に便乘して極東に於ける強國たる日本の大陸進出を妨害せんと試みたのである。英國が主として浙江財閥を基礎とする國民黨内に勢力を占めて其の既得權益を擁護せんとするのに對抗しソ聯は共產黨を操縦し主として農民層に其の新興勢力を扶殖せんとして居る事は明瞭な事實である。従つて國共兩黨は背後の力を異にし其の本質を異にして居るから對立抗争するのは當然の様であるが、抗日といふ共通の目標の爲に大體同行、國共合作を以て今次の事變に臨んだのである。

最近重慶内部や山西、河北兩省等に於て國共の衝突を傳へられて居るのは歐洲事態の反映とも見られるのであつて、英ソ兩國の關係が對立状態にある現状より見て當然の傾向である。

廬溝橋事件の直後我が國は終始不擴大方針を堅持して來たのであつた

か、歐米ソ聯の示唆煽動を受けた抗日政權は自己の犠牲に盲目となり我が國との間に時局を收斂せんとする反省の餘裕なく、遂に今日の如き未曾有の大戦状態に進展したのである。

英國が最近日本に妥協的態度を示して來た事は、在支國利益の過半が上海を中心として我が占據地域内にある爲利等を忖算した結果と歐洲の情勢切迫による當然の一向である。反之共產黨の根拠は我が占據地域と對蹠の西北支那にあり、且又日支抗争による兩國の疲弊は赤化促進の好條件であるから徹底抗日を呼號し、重慶政權を脅迫して抗戦繼續の盲動をなしある所以である。

### 二 交戦の對象は何か

#### ノ抗日政權の逐次打破

現在重慶には英、米、佛、ソ聯等の大使が集合して何事かを畫策して居る。英、米、佛は何とかして重慶を助けて日本の腰の控けるのを待ちソ聯は日支の抗戦繼續によつて日本の對ソ戦力の消耗と支那の疲弊による赤化の促進とを策しつつある事は誰しも判断し得る所である。

惟及其の軍、匪であつて決して支那の良民ではない。従つて此等抗日  
政權及其の抗戦力の主體たる軍、匪は本事變の目的に鑑み徹底的に降  
服し之が誠意反省を見る迄は一年でも十年でも戦争は繼續しなけれ  
ばならないが、刀折れ矢盡きて我に降り或は其の誤りを覺つて歸順して  
來たものは之を寛容すべく、又無辜の良民は心から之を殺し、弱き  
を扶け強暴を挫くべき我が傳統の武士道を此の混戦に於て遺憾なく發  
揮する事が派遣軍將兵に課せられた大使命である。

#### 2 歐米諸國の對日敵性の本質

英、米、佛等の諸國が軍機政權を援助して居る根本目的は前述の外、  
日本の援助による支那の獨立解放を恐れて居るからである。即ち彼等  
は支那乃至東洋を永久に殖民地の狀態に置き、本國人の利益を基礎と  
し搾取の對象として之を維持する事を念願するものであり、又ソ聯の  
企圖する所は抗戦繼續による日支兩國國力の消耗であつて共に道義に  
反し打算に立脚するものである。

尙彼等の我を危惧する理由として極東よりの閉出し放逐を受けると謂ふ幻影恐怖感を擧げる事が出来る。是は東亞再建と東亞閉鎖との間である。支那の獨立完成と日支の善隣結合とは何等第三國の排除を意味するものではない。彼等の正等善意の協力は寧ろ望む所であり、是れ萬邦協和の本領なのである。

皇戰の眞義が御詔勅に炳かなる如く東洋の平和であり、道義の顯現であり、抗日支那の反省を促し其の建設に協力するものであればこそ等は堂々天地に愧ぢず千萬人と雖も我往かんとの信念を以て邁進しつあるのである。打算に立脚した列國の向背は一時の現象であつて、人が正道を履んで終始不渝る事なれば天下に敵なく道義は必ず其の光りを放つであらう。

三 大御心を拜察せよ

／事變發生當時の御勅命と本庄將軍滿洲より歸國の際の御下問

第七十二帝國議會開院式に賜はつた御勅語に於て「帝國ト中華民族ト提携協力ニ依リ、東亞ノ安定ヲ確保シ、以テ共榮ノ實ヲ擧グルハ、





ヲ掩ヒテ宇ト爲ムコト、亦可ナラスヤ」とは神武天皇御即依の大詔であり、道義を根本となし正義に則り正道を履み四海同胞、萬邦協和の實を擧げる事は我が建國の大精神である。東亞の再建とは此の大詔を奉體し、此の建國精神を東亞に於て實踐するに外ならず、東洋への自覺に於て正しきを養ふ事即ち東洋道義の再建を根本とするものである。廣く貴賤、貧富、強弱を問はず悉しみ給ふ。天皇陛下の大御心は太陽の御光りの如くであらせられるから内外に光被し久遠に偏照して窮りなく、其の光り正しきが故に強く正しきが故に久しきを待る所以である。

歐米諸國の支那、印度、阿弗利加等に對して採りつゝある資本主義的侵略や、ソ聯の企圖する階級闘争による世界革命は他國又は他民族を犧牲として自國民のみの繁榮を圖るものであつて、天地に愧ぢざる大道でない。従つて能く久しきに亘る事が出来ないてあらう。現下世界を擧げて動亂の渦中に投ぜられつゝあるのは此の如き非道義的性格を有する世界政策の齎した當然の混亂である。我等は八紘一字の眞義に

徹し以上の如き混亂から東洋を救ふ爲自ら先づ道義を實踐し其の結果としての日滿支三國の結合により東洋永久平和の基礎を確立し以て大御心に對へ奉らねばならぬ。

#### 四 事變は如何に解決すべきか

##### 一 事變確決の根本觀念

八紘一字の理想は萬邦協和の建設計であり、東洋平和は萬邦協和への第一歩である、東洋を救つた後には世界を救はねばならない。而して東亞再建即ち東亞新秩序建設の爲には先づ其の基礎である日滿支三國の關係を道義的基礎の上に物心兩面に互り調整結合せねばならぬ。是が今次事變の直接目的であり、日露戦争、滿洲事變及今次事變は之が歴史的努力の過程である。即ち今次事變の本質は消極的には、日滿支三國の安定確立に關する努力であり、積極的には東亞再建への發足である。

日滿支三國關係の調整結合に關しては既に國策として善隣友好、共同防共、經濟提携の三原則が提唱せられてゐる、即ち三國は道義を以て

一致の根源となし、國共及經濟の協力を以て重しとなすものであつて相互に國家民族の本領特質を尊重して相提携し互助親睦の好誼を厚くし、隣邦相戒めて唯物亦化の侵襲を防ぎ、平等互恵の經濟を以て長短相補ひ有無相通ずるの實を擧げ、以て東洋本來の道義文化を保全發達せしむべきであり、此の關係は東亞再建の基礎であり、模範であらばならぬ。

日本は支那の統一強化を望むか、細分弱化を望むか支那が眠れる獅子として尙獅子の威力を有して居た時には列國の東侵略を遠慮させて居たのであるか、日清戰爭の結果眠れる獅子の弱體を世界に暴露した爲に歐米諸國の侵略を見た事は歴史の明示する所である。

支那の獨立を脅威せられる事は東洋の平和擾亂であり日本への脅威である。從來動もすれば支那を細分弱化して之を操縱せんとする様な考へを持つ者が絶無ではなかつたが、此の考へは支那を侵略せんとする歐米諸國の模倣であつて斷じて再建の目的ではない。

日本が支那の内部に火の如く起りつゝある支那統一の民族的要求實現に如何なる協力をも惜しまざる大決心を固めた時に始めて日支善隣の結合は得られるものである。萬一日本人にして支那人を論じて不當の所得を望み、或は外國に倣つて支那を日本の植民地の如く考へる者あつたなら道義日本の本質に反するものであり、到底天に恥ぢざる念を持つ事は出來ない。

皇威の眞義は道義による新秩序の建設にある事は炳乎たる大方針であるから總ての施策亦言行一致の誠意を以て臨まねばならぬ。

歐米諸國の唯物的非道義的政策による舊秩序（資本主義的支配又は階級闘争的革命）の清算是正を目的として起つた皇威の眞義を、何等の未練と懸念なしに現實に於て示す事を我等の念願とし理想としなければ大御心に副ひ奉る所以ではない。

### 3 滿洲建國の根本精神を想起せよ

日清、日露戦役、滿洲事變による幾萬の尊い犠牲を以て産まれた滿洲帝國は民族協和の新原理による道義國家である。先般日本より進んで

治外法權や附屬地行政權を還付して、滿洲國の健全なる發展強化に替  
隣としての道を盡したのは内外齊しく知る所であらう。爾後の滿洲國  
は陸々たる發展を示し世界動亂の北中にあつても三千萬の民衆のみは戰  
禍を受ける事なく其の居に安んじ其の業に樂んで居る。

滿洲國が以前の様な張軍閥の權取下に在つたならば恐らくは今頃はソ  
聯の一屬領となつて三千萬の良民は塗炭の苦しみを嘗め、或は第二の  
日露戰爭が滿洲の野に展開されて居たかも知れない。

#### 々東亞新秩序と東亞聯盟の達成

東洋諸國が桃源の甘夢から醒めた時には歐米諸國の爪牙が既に其の心  
腹部に喰込んで居たのである。

支那が百年前に覺醒して居たならば支那の獨力で歐米諸國の侵略を防  
止し、阿片戰爭も日露戰爭も或は今次の事變も免れ得たであらう。

元來日支兩民族は歴史的に二千年の交誼を有しつゝも西洋諸國との接  
觸以前に於ては國を擧げての干戈を交へた事例がない。日滿支三國が

個々に分裂抗争すればこそ歐米に侵略搾取の機會を興へるが、三國が眞に結合すれば恐らく世界の何れの國と雖も一指をも染める事が出來ないであらう。即ち東洋永久平和の基礎は日滿支三國の道義的結合の上、東亞聯盟を締成し、善隣友好の關係を維持し、東亞侵略の暴力に對しては共同防衛に任じ、相寄り相扶け互恵の經濟を以て有無相通じ三國國力の充實發展を圖る事によつてのみ實現せられ、是にては東洋に於ける他の諸民族の自主正常の發展をも助成し、萬邦其の福祉を俱にするの世界平和に貢獻せ得るのである。

東亞新秩序即ち東亞再建は以上の如き日滿支三國の善隣結合を中核とし、之を全東亞に發展せしめんとするものであつて、其の應接する所は東亞の各國家民族が夫々委任の處を得、近隣親睦、互助協力し各々其の天分を遂げて興隆し以て東洋の道義文化を再建發展せしめんとするに在り、其の要點は道義的基礎の上に各國家民族の自主獨立と國防及經濟等の相互協力關係とを律する事である。

東亞新秩序に於ける國家相互間の關係は先づ於て聯盟締成への發展

を豫期するものである。東亞聯盟の眞義は右の様に道義的基礎の上に東亞の安定と發展とを確保し、世界平和の再建に貢献せんとするものであつて、先づ日滿支三國を以て之が基礎となすも、三國以外の諸國が之に加入する事は固より當然の發展として期待する所であり、又歐米諸國にして之に偕行協力せんとするに於ては勿論喜んで其の進出を迎へるものである。

● 派遣軍將兵は如何に行動すべきか

● 眞個の日本人たれ

日本内地に於て今尙聖戰の眞義を以せず、西洋倭寇の侵略思想に依り權益的代償を求めぬ觀念を清算し切れない者のある事は遺憾である。陛下の萬歳を遺言とし東洋平和の人柱となつた十萬の骨の上に築かれるものは皇道の宣布であり、東洋道義の確立であり、其の結果としての東洋の平和である。求めざる心によつてのみ永遠の平和が求められるのである。力を以て求めたものは力を以て奪回せられ、道によつて得たものは道に悖らざる限り喪はれない。



前に謹述した御勅語の中に「中華民國深ク帝國ノ眞意ヲ解セス」と宣はせられて居るのを拜誦して恐懼に堪へない事は、事變前に於て我々日本人が眞の日本人として大御心を奉體し之を支那人に傳へ、支那人をして大御心を理解せしめるの努力に缺けて居た點である。

事變解決の根本條件は一語の日本人が速かに歐米的思想より覺醒し眞の日本人に立還りて日本の眞の姿を確認し、國を擧げて韓日の大理想實現に身命を捧げる決意を固める事を第一とすべきである。東洋を東洋へ還す前に先づ日本人は日本人に還らなければならぬ。

皇軍たるの本質に徹し身を以て道義を實踐せよ

皇軍の性質は道義の軍として皇道を宣布する事を其の使命とするにある。陛下の軍人、陛下の軍隊は行住坐臥唯々大御心を奉體し身を以て實踐しなげばならぬ。皇軍遂行の第一線に立てる派遣軍將兵が其の行狀に於て天地に愧づる様な事があつては大御心を冒瀆し奉り、支那人に反つて永久の恨みを殘す事となる。人心を遠して皇軍の意義はない。掠奪暴行したり、支那人から理由なき差別待遇を受けたたり、

洋車に乗つて金を拂はなかつたり、或は前伐に藉口して敵性なき民家を焚き、又は良民を殺傷し、財物を掠める様な事があつては如何に宣傳宣撫するとも支那人の信賴を受けるどころか其の恨を買ふのみである。従つて假令拔群の武功を樹て、も逞賊たるの戦果を全うする事は出来ない。

十島の英雄は地下で我等の行状を見守つて居る、司令部や本部は率先して自願自戒常に第一線將兵の上に想ひを致し、第一線將兵は戦死した英雄に想ひを致して其の身を正しく律する事が生残つた者の當然の道である。

長期戦勝の要因は志氣の漲張に在る、聖戦の目的を貫徹するまでは五年でも十年でも戦はなければならぬ。征戦久しきに滿るも軍紀の弛緩を來さない爲には特に上級者の自願自戒率先垂範を先決としなければならぬ。

3 敬、信、愛を以て兩民族を永久に結合せよ

「賜きが故に助ける」といふ氣持（愛）は日本人の傳統的性格である

是戦の出発點は歐米諸國の策動に利用せられて自動する抗日政權を膺  
感し、屠げられたる良民を救はんとする精神に立脚して居るものであ  
るが、戦後に期待する日支兩民族永久結合の爲には更に一步進んで支  
那民族の本質を正視し、其の長所を見出し之を尊重し信を其の腹中に  
置くの雅量を必要とするものである。我を騙すかも知れないと用心し  
てかゝれば對手も亦何時迄も解きない氣持を抱く事は、個人の変換に  
於ても國家の關係に於ても同様である。四千年の古き歴史と歐米に先  
覺せる文化を持ち、我が國と二千年の友好關係にあつた支那であり、  
兵匪の暴掠や天災地變に脅かされても誰人にも訴へる能はず、又最近  
に於ては歐米諸國の資本主義的侵略に罹取せられながらも根強く生き  
し、夜々營々として大地と共に生きて居る支那人を見て、其の戦慄と  
其の忍苦と其の素朴とに美點を認め、一廢や二廢の背負役げも喜んで  
受けるだけの腹で進めば必ずや兩民族の精神的結合に到達し得るであ  
らう。

日本を屈服せよ、日本人と提携せよと如何に叫んでも支那人が心から

日本を信賴し日本人を信用するに至らない限り一方的である。  
我等は支那人に呼びかける前に先づ己を眞の日本人として正しくする  
事が先決條件である。

英韓を冒瀆すべき不良邦人を戒飭懲罰せしめよ

軍に跟随し同胞の先驅として大陸に進出した邦人中には或は直撫に、  
或は看護に献身犠牲的活動をなし戦に殉じたもの、又現に活動をなし  
つゝあるものも少しとはいえないが、日本人の面汚しも亦少からざる現  
状である。法に罰れたものの多い事は勿論罰れないものと雖も道徳的  
に指弾せられるもの、甚だ多い現状は遺憾ながら之を認めざるを待た  
ない。

上海・南京・天津・北京等の夜の状況を一巡すれば如何なる状態にあ  
るかを判断する事が出来よう。遊興の影には不正があり勝ちであり、  
支那人を瞞し脅して不正に利得を貪り、或は敵側を利惑る事を知りつ  
つも營利の爲敢へて之を爲し、或は外支人の手先となりて我方に不利  
をなす行爲を敢へてする者、就中外人に對し名義貸しをなし不當の利

益をなすもの。或は個人の利益のみを圖りて全般的統制指導を拒否するが如き者がある状態では、何時迄経つても、戦の成果を収める事が出来ないのみならず、日支兩民族を永久擁護に導くものである。派遣軍將兵は先づ身を以て自肅の範を示し、不良邦人の反省自覚を促し、十萬の英雄を冒瀆する様な結果を來さしめない心構へを以て足下を淨める事に努力しなければならぬ。

十萬の英雄は不良邦人が誤を犯やす爲に日支兩民族再び抗争に導く様な結果を見たら地下で何と訴へるだらう。英雄を慰めるの途は單に禮拜供花のみでは足りない、其の骨の上に築かれる日支永久の結合を實現させる事に盡力を盡す事が生残つた將兵一同の義務であり、又英雄に對する最善の供養である。

#### ふ支那人の傳統と習俗を尊重せよ

支那には支那の傳統があり、支那人には支那人特有の習俗がある。之を尊重し之を理解して其の面子を備ふ事は絶對不可缺の要件である。日本人は眞の日本人たると共に支那人が眞の支那人たる事を尊重せね

ばならぬ。友好には寛容と同情とが必要である。

日本人の法則を支那に強ひたり、日本人が支那の内政に干渉したり、日支合作を言へながらも支那人を傀儡視したり、又は其の言明を無視しては如何なる創意妙策と雖も實績を擧げ得るものではない。宜しく支那自説の事は支那人に委せ信を其の腹中に置く度量を以て接しなければならぬ。

る正當なる第三國人に對しては寛容であれ

破邪顯正は皇の使命である。皇軍宣布の爲には國を擧げて起つべき我が國民的信念であると同時に、無力の弱者を庇護する事も我が武士道の本領である。今や我が占據地域内に關する限り第三國利益の如きは我が大軍艦隊の前に無抵抗の存在である。此の裡にあつて遠く歐國を離れて生存する第三國人に對しては正當にして利敵行爲を爲し、支那の良民と同様寛容を以て之を遇し無用の危険を去らしむべきである。東亞再建は萬邦協和への段階であるから不當利敵のものには之を排するも正當不偏のものには斥けるべきではない。戦時の要求存在

0210

するの故を以て平時も永久に然らんとする彼等の危険に對しては我が  
要求の派威を吟味して之を明示し、我が公明なる眞意を諒解せしめ  
様に教へ且尋くべきである。過去に過てるが如に現在にても皆め、大  
國非道の故を以て非なき個人に報復する事は皇軍將兵の爲すべき所で  
はない。若し夫れ彼等の本國が聖威の眞意を曲解し東亞の擾亂を圖  
ものあらば堂々國家の決意に於て彼等正一り兩斷の決意をなすも  
である。

#### 交代歸還將兵に告ぐ

皇威久しきに亙るに従ひ内地に交代歸還する將兵の言動が日本の國內  
に與へる影響の如何に強いものがあるかを深く省る必要がある。  
征戰三年有ゆる國書に堪へ彈雨を目して待た精神の收復は歸國と共に  
消滅し、物質主義の世相に地込まれる事がある。或は高い地位にありついで居る等  
なかつたものな樂をして金を蓄め、或は高い地位にありついで居る等  
の矛盾せる現實を捉へて歸還將兵に呼び掛ける國體破壞の左翼運動が  
潜行して居る事も警戒すべきである。戦友を失ひ、部下を殺し、上

を亡した者の考へなければならぬ事は地下の英靈が何を望み何を期  
待して居るかの一事である。皇國日本の姿を益々高く世界に顯現し、  
東洋平和の御詔勅を奉じ陛下の萬威を遺言として骨を曝したのであ  
る。若し此の英靈を冒瀆する様な國內の醜狀、國民の無自覺あらば敢  
然として起ち皇運を扶翼し奉り皇戰の目的貫徹に向つて國內を導くの  
覚悟を必要とするのは言を俟たない所である。生命を彈雨の危險に曝  
し、幾度か死線を越えて待た精神の收穫は如何なる物質を以ても購ひ  
得ない賜である。歸還後物質萬能の世相に取返する事なく皇國民の精  
神的中核となつて郷土を指導する事は生き残つたものの英靈に對する  
義務である。

歐洲に於ては昨秋以來第二の大戦状態を呈し、東洋に對する列國の干  
渉は其の爲に稍と緩和の状態にあるが、利害打算を信條とする歐洲各  
國が打算の取れない戦争を永續するものと期待してはならない。何時  
平和一面より武装平和であるが一状態になるかも豫測出來ない。此の  
秋に於て彼等が歐洲に付られなかつたものを東洋に求め、又第三國が

0212



進袂して對日干渉を試る事も當然豫期しなげればならぬ。  
第二・第三の國難内外兩方面より神國日本への試練として加へられる  
事を豫期し、進進難に赴くの準備を整へ以て大元帥陛下の信倚に對  
へ奉る事が十萬の英靈に對する祠よりの供養である。

0213